

春秋会

ニュースレター

2022.8



今月の予定

- ・8月5日(金) 18時 若手会「ビアパーティー」
- ・8月23日(火) 12時 第5回幹事会
- ・8月24日(水) 13時 第3回選考委員会
- ・8月27日(土) 親睦委員会「オリックスビスタルーム観戦」

日本全国でコロナの感染者数が過去最多を更新し、せっかくの夏休みの旅行の予定がつぶれてしまった先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。その空いた時間に是非NLをお読みいただければと存じます。今月のニュースレターも豪華なラインナップでお届けします。皆さまからのご意見・ご感想など、広報委員一同楽しみにしています。

夏限定企画「僕の、私の怖い話」第3弾

6月号から続く怖い話第3弾!

今月も、夏ならではの、思わずヒンヤリしてしまう怖い話を皆様にお届けします。

夜怖くて眠れなくなっても広報委員会は責任を取りませんのであしからず。



URINARY STONE (60期: 広瀬元太郎)

私のところに定期的にやってくる嫌な奴がいる。尿路結石 (URINARY STONE) である。おおむね 7, 8年に一回やってくる。痛い。経験した方はわかると思うが、尋常な痛みではない。「50万円払ったら、すぐ痛みを止めてやる」といわれたら、すぐに払ってしまいそうだ。

何回か排出された石を見たことがあるが、球体に突起状の物が2, 3本出ているという凶悪な形状をしている。ただ、この突起が痛いわけではない。石が尿を止めて尿管を圧迫することが痛みとして感じられるのだ。

2018年の4月ごろ、奴はやってきた。おおむね6年ぶりだった。

しばらくは騙し騙し共存していたが、5月のある日の午前2時、痛みが激しくなり、生まれて初めて救急車を呼んだ。近所迷惑をおそれて、「静かに来て下さい」とお願いすると、サイレンをならさずに来てくれる。

一応、自力歩行ができるので、歩いて救急車に乗った。「早く、病院に連れて行って痛み止めを打ってください。でかい病院に連れて行ってください。兵庫医科大ですか? 労災病院ですか?」心の中で訴えていた。

患者を乗せた救急車は、爆速で病院に向かうのかと思っていた。しかし、係員は「痛いですか」と聞いてくる。「はい」。「生まれてから今までで一番痛かった痛みを100とすると、今回はいくらくらいですか?」。ん、難しいな。生まれて初めての結石のときの方が痛かったかな。小学校の時、ブロック塀の上を平均台のように歩いていて落下したときもすごい痛かった。そういえば、シェ

2022 年度 広報委員

- ・堀川 智子 (57 期、委員長)
- ・西原 和彦 (55 期、担当副幹事長)
- ・有村 とく子 (50 期)
- ・中森 俊久 (55 期)
- ・山口 昌之 (58 期)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・広瀬 元太郎 (60 期)
- ・柳 勝久 (61 期)
- ・山田 寛子 (65 期)
- ・金 星姫 (66 期)
- ・木場 晶子 (67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・板崎 遼 (67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・高 一成 (69 期)
- ・根本 俊太郎 (70 期)
- ・佐久間 ひろみ (71 期)
- ・足立 敦史 (71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平 (71 期)
- ・才木 晴幹 (72 期)
- ・久井 大輝 (73 期)
- ・山本こずえ (73 期)
- ・佐々木 崇人 (74 期)
- ・神澤 鈴子 (74 期)

パードに噛まれたことも…。謙遜して、80%と言ってしまった。つべこべ考えず、「20000%です」と言えばよかった。

救急車は発車し、上記のいずれでもない病院に着いた。病院に着くと、看護師さんが迎えてくれた。ほんとうに夜中にありがたいです。看護師さんは、やさしく「生まれてから今までで一番痛かった痛みを100とすると、今回はいくらくらいですか？」と質問してきた。これって、医学の世界では「お飲み物はいかがですか？」みたいな決まり文句なのか？ここでも、「80%くらいです」と答えてしまった。看護師さんは安心したのか「しばらく、そのベンチで座っていて下さい」と言った。

10分待ったのか20分待ったのか。なんか、痛みの波も小康状態になってきた。ドクターがやってきた。「どこがいたいのですか」「背中です。尿路結石を何回かやっております、今回もこれだと思います。」「いつ頃から痛いですか」「1時くらいからです。」「生まれてから今までで一番痛かった痛みを100とすると、今回はいくらくらいですか？」「80%です…。」伝達されてないのか！

宮沢賢治の「注文の多い料理店」を思い出した。

ドクターは、MRI で見えます、とおっしゃった。石があるのは確定的なので見ても仕方ないのではないかと思ったが、同じ専門家として、「素人が知ったように専門家の判断に口をだすと、専門家はむかつく」はずだと考え、おとなしくしたがうこととした。MRI の準備をしますと言って去っていったドクターは30分経ってももどってこなかった。

そのころになると、痛みは当初の半分くらいになっており、例の質問に対しては、40%と答えるべき状態であった。やっと戻ってきたドクターは、「MRIが故障中でして…」と答えた。私は、「だいぶ痛みも緩和されてきました」。ドクターは、満面の笑みを浮かべ「それはよかったです。レントゲンだけとっておきましょうか」と言った。

レントゲン撮影の後、ドクターは石の場所を教えてくれた。大体知ってました。特に痛くないのであれば、処置は不要ということで、帰らされた。結構な額の医療費を払った。帰りは、当然救急車ではなく、タクシーで帰った。さらに、タクシー代がかかった。医療業界の決まり文句は覚えたが、釈然としないまま帰宅した。

それから3か月、奴はずっと居続けた。奴が、7月ころ尿管から膀胱に居場所を変えているのはわかっていた。奴が膀胱に入った段階で、感覚は「痛み」から「永久に続く残尿感」に変わるのだ。強烈な痛みが来ない安心感から、8月に北陸に家族旅行に行った。黒部峡谷鉄道に乗るために利用した富山県宇奈月温泉駅のトイレで、軽い痺れのような感覚と共に、奴はカーンという音を立てて、年代物の陶器製の小便器のなかに旅立っていった。私は拾おうとしたが、奴はもう見えなくなっていた。

私としては、これを「宇奈月温泉事件(平成30年8月24日)」と呼ぶ。

大阪城のお堀で溺れても、やめられないトライアスロン

松井淑子(51期)

1 2018年6月、大阪城のお堀で泳いで溺れて、最後はボートで救出されました。第2回大阪城トライアスロン大会でのことです。その時の写真です。



トライアスロンは、スイム・バイク・ランからなるスポーツです。距離はスイム1.5キロ、バイク40KM、ラン10KMのオリンピックディスタンス(OD)から、スイム3.8KM、バイク180KM、そしてランは42.195KMのフルマラソンとなるロング、IRONMAN ディスタンスと呼ばれるもの、その間のミドルと呼ばれるものまであります。ロングは、関西なら、和歌山県田辺市の海で90分ほど泳いで、そこから大阪まで7時間30分ほどバイクのペダルを漕いで、大阪から京都まで6時間走り続ける感じです。制限時間は長い大会で17時間です。

今回トライアスロンについて語る機会をいただいたところ、まずは自分の経歴を語ってみます。マラソン大会に出て走っている方は多いので、この程度で出来るんやと思ってもらって、私のようにマラソンからトライアスロンに流れ着く方が出てくれたら嬉しいです。

2 40才頃、ベテランランナーの37期川村哲二先生のツイッターを目にして、外を走るのは楽しいかもと、家の近所の淀川沿いを走ったところ、心拍が上がった後の爽快感、普段見ることない太陽の位地、風を感じ、走ることにハマりました。また、持久系の運動は大人になって始めてもやればやるほど確実に成長を実感できます。勢いで翌2011年、岐阜県いびがわマラソン大会に出て、坂道での地球の引力、沿道の応援の力を実感し、5時間10分で楽しく初完走しました。

それで調子に乗って、プールで泳げるし、自転車も乗れるし、だったらトライアスロンもできるのではないかとの軽い気持ちが始まりでした。エントリーモデルのロードバイクにウェットスーツを買って、2013年、兵庫県赤穂市でのトライアスロン大会に初出場してみました。プールでの1.5KMとオープンウォータースイム(OWS)での1.5KMは別物でした。足がつかないことに怯え、泳ぎだして5Mでパニックとなり、周りが前へ前へと泳いでいく中、ひとりスタート地点へと泳ぎ、リタイア(DON'T FINISH、DNF)でした。

3 もう一度トライする気持ちにもなれなかったところ、2015年、元オリンピック選手の西内洋行さんが始めたNSIトライアスロンスクールが大阪にあると、51期同期の沖縄在住トライアスリート畑知成さんから教えてもらいました。

青い空の下を泳ぐ開放感と緊張感はなんとなく覚えていました。やはり一度は完走したいとの思いがあり、習うべきだと淀川区三国での朝6時15分からの週2回のNSIの練習会に参加しました。

海でタフに泳ぎ切る実践練習が中心で、同年代くらいのベテラントライアスリート会員に囲まれ、20代のコーチからセッションをうける日々でした。

そして2017年4月、リベンジとしてODの石垣島トライアスロンにエントリーし、なんとか完走しました。46歳、スイム39分、バイク1時間52分、ラン1時間11分のトランジッション時間を入れての3時間43分でした。

4 そして2018年6月、余裕と思ってODの大阪城トライアスロン大会に出場したところ、まさかのスイムでのパニック再来、ウェットスーツをきているのに沈む下半身、前に進まず、過呼吸、セーバーのボートに捕まり休憩し、平常心を取り戻すのに5分。なんとか泳ぎだした頃には制限時間の45分間に合わず、大阪城のお堀で溺れてボートで回収となりました。

5 この時、翌週、長崎五島トライアスロン大会のミドルに初エントリーしていました。このような泳力で海の2KMを完泳できるのか。かなり心配されました。が、宿も飛行機も予約しており、もうやってみるしかありません。五島へ行きました。

そして当日。朝4時起き、8時スタート。スイム2KM、バイク124KM、ラン21KM。スイム57分、バイク6時間22分、ラン2時間59分の10時間19分でなんとか完走できました。

OWSではまた過呼吸になって溺れるのではないかとの恐怖。スタート時はただただ水平線を見て、入水自殺をするような暗い気分です。海に浮かぶブイを見失い間違った方向へ泳ぎ、セーバーに「あっちですよ」と声をかけられる。なんとか平常心を取り戻して制限時間数分前でスイムをアップ。そしてバイクへ。ここに至るまで、見かねて半年近く月2回、篠山辺りでのバイク坂道練習に付き合ってくれたNSIで一緒にベテラントライアスリート。練習時

の感覚を思い出し、ひたすらペダルを回す。エイドではスタッフの方に向け声をかけてもらう。バイクもなんとか間に合う。そして最後のラン、何度も歩いたけど、折り返して走ってくる知り合いの選手から声をかけもらう。走らな、と気力を振り絞る。そしてフィニッシュ。

やっている間はそのことだけに集中し、「なんでこんなことをしているんだろう」と思いつつ、それでも「ああ、今、生きてるわあ」と思える時間を味わう。

結局、トライアスロン大会は全てを忘れて別世界を味わう瞑想とっています。だから、溺れてもやめられない。

さらに興味深いのは、1人の競技なのに、練習友達やベテランの先輩トライアスリートなど多くの人を借りて自分はやれているんだ、1人では無理だと実感できることです。

6 泳いで、ペダルを回して、走るだけのトライアスロンだからこそ、51才になっても、日々成長、日々1年生の自分を楽しめます。ぜひ、こちらの世界へ！



¹ 松井先生は、令和4年7月24日に開催される徳島県のひわさウミガメトライアスロン大会にエントリーしておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大会自体が中止になり、参加できなくなりました。同年8月28日の北海道トライアスロン (@洞爺湖) にもエントリーされているようですので、北海道の大会は無事開催されるように、広報委員一同祈念しております。



関西からの日帰りローカル線紀行(3)

徳島県：JR四国土讃線 坪尻駅2回目

広瀬元太郎(60期)

さて、今回は、2022年4月23日に、秘境駅と呼ばれる坪尻駅に行って、そこから歩いて脱出しようとしたが、雨なので折り返しの列車で帰った、という話であった。2か月空いているのでお忘れかもしれないが、ニュースレター5月号をお読みいただければ、ありがたいです。

前稿の公約を果たすため、日本国憲法が施行されてちょうど75年後の5月3日、再度徳島に向かった。今回は、岡山県の日生から小豆島を経由して



坪尻駅に向かった。今回は、7:10発、南海電車特急サザンで和歌山港駅に向かう。

難波から和歌山港まで電車で行き、そこから南海フェリーで徳島まで行くルートについては、「徳島好きっぷ」という割引切符が発売されている。金額は2200円、安い。おそらく、常識的

な方法で大阪から四国に行く最も安いルートである。この切符をつかうと、4000円くらいで坪尻駅に到達することができる。

1時間04分で和歌山港に着き、16分後の8:30にフェリーが発発する。

このフェリーには苦い思い出がある。2019年10月、徳島の人権擁護大会に出席するため、現広報委員長のHさんと、同委員のTさんとともにこのフェリーに乗船した。その日は悪天候で船は激しく動揺し、船酔いで苦悶した。さらにタイミングが悪いことに、私の前職の後輩で、今や和歌山県の有力者となっている人物が現れ、我々が込み上げてくるものと闘っているときに、空気を読まず昔語りを始めたりして、両先生に迷惑をかけたことが思い出される。

この日は、打って変わって晴天かつ波もなく、穏やかな船旅である。ゆっくりと和歌山港が遠ざかり、紀淡海峡を経て、淡路島の南岸を西に向かって航行する。ただし、連休の初日なので、雑魚寝ゾーンも満席で、寝ながら寛ぐのは困難であった。フェリーの乗船時間は2時間5分、バスに乗り換えて、11時ころには徳島駅に着く。

徳島からは、徳島線というローカル線に乗り、坪尻駅への乗換駅である佃駅に向かう。徳島線は、四国の東端にある徳島市から、四国最長河川吉野川

の南岸を走り、ちょうど四国の真ん中にあたる佃駅に向かう68.9キロの線区である。これといって名所はないが、ときおり見える吉野川が美しい。

12:00 発の特急「剣山2号」で途中の阿波川島まで行き、そこから普通列車に乗り換え、13:39 に佃駅着。この駅の小さなホームで2分待つと、坪尻



駅へと向かう普通列車がやってくる。15分で坪尻着。今日はゴールデンウィークの初日なので、5人ほどの下車がある。全員、物好きな鉄道マニアである。自分も、2週間空けずこの秘境駅にまた来たのだから十分な物好き

である。もちろん「物好き」「暇人」は、最高の誉め言葉だ。



【出典：国土地理院発行2.5万分の1地形図】

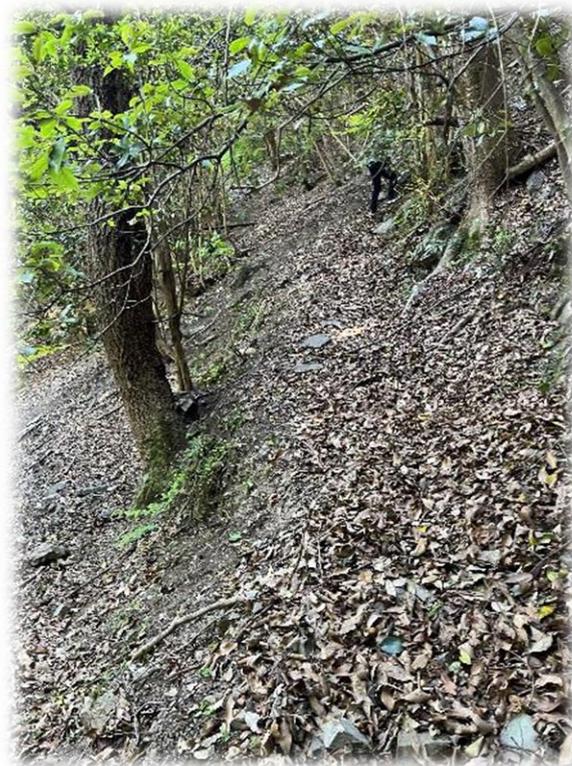


今日のミッションは、坪尻駅（地図中央上部）の西（地図では左）の点線の道を経て、実線の道に出て南下、「入体」集落を通過、九十九折の道を下り、「四国中央橋」北側の黄色の道（吉野川北岸）を西進、池田ダムの堰堤上の道路を通過して吉野川を渡り、阿波池田駅（地図左下）に向かうルートの踏破である（前回も概ねこのルートを予定していた）。目標は、阿波池田発 15 時 23 分の特急に乗ることである。

1 時間 30 分しか時間がないので、駅の撮影もほどほどに、さっそく脱出開始である。

この「木屋床方面」という標識のさす道が坪尻駅から西へ抜ける出口なのだが（点線の道）、すでに前途多難な状態である。この道に侵入し、2 分ほどで、軽い土砂崩れあったような地点があり、道が消失する。山の斜面全体が、砂利で覆われてしまい、道とそうでないところの区別がつかないのだ。

私と同様に脱出を試みている鉄道マニアが前を歩いており（左写真の黒いズボン）右の斜面を登っているが、道を間違っている。すでに道かどうかよくわ



からないが、方向からしてここは直進が正解のはずである。一応、弁護士倫理上、彼にはその旨忠告したが、右に登り続けていたので、どうなったかは知らない。まあ、死ぬような場所ではない。

この道は、坪尻駅の駅前通りなのだが、阿波池田までのルートの中で最難関である。坪尻駅の海拔は 214m、点線の道が実線の道に合流する地点の海拔が 300m なので、このような道を 100m 登らないといけな

なんとか、この獣道を登り終え、実線の道に出たのが、14:12。もう20分もたっている。全体の20分の1くらいの距離に、持ち時間1時間30分の4分の1近くを費やしている。大丈夫か？

実線の道も予想した通り、舗装しているのかどうかよくわからないような小道であったが、ここからは大きな登りもなく歩くのは楽である。林の中を進むので見通しは悪い。ようやく、木立が切れ始め、遙か眼下の吉野川や徳島県一の高峰剣山付近が見えてくる。新緑のハイキングは心地よい。しかし、問題は時間である。実線の道は思ったより長く、行けども行けども、同じような景色



が続く。なかなか九十九折れの下りはじめのところにたどり着かない。

そして、九十九折れの下りはじめについたのが、14:40 まだ半分も来てないのに、残り時間は40分だ。さらに、九十九折れの道は地図で見るよりも遙かに長かった。急な下り坂

を早足で歩いているので、足が痛くなってきた。つらい。雲一つない天気ゆえに暑い。蛭子さんや太川陽介のバス番組みたいになってきた。あの番組、よく走ったりしてるけど、撮影とはいえよくやる。

九十九折れを下りたところ(地図の四国中央橋の北側付近)で残り時間は20分となった。阿波池田駅は、まだここから3~4キロはあり、この距離を20分で進むのは100%無理だ。偶然タクシーとか通らないかなとか悪あがきをしたが、そんなことはあり得ない。ポツダム宣言受諾。高速バスの予約を



キャンセルした。

次の列車は1時間後なので、ゆっくり歩くこととする。

吉野川の流は美しく、疲れを癒してくれる。ダムので堰堤を渡り、昔、高校野球で強かった池田高校の横を通り、阿波池田駅に着いたのは、予定より35分遅れの15:55であった。間に合わないことが確定してからは、だらだら歩いたり、高速バスのキャンセルの電話とかを入れたりしたので、真剣に歩けば15:45には着いたと思うが、ちょっと山道を舐めていた

と反省する。前回、坪尻駅夕方 17 時スタートとかしなくてよかった。まあ、阿波池田駅まで到達したので、今日のところは良しとしておこう。前回、もし、読者の皆様がこれを行う場合は(だれもしないと思うが)、坪尻駅→阿波池田駅は徒歩 120 分、水はペットボトル 2 本が必要であることを付言する。

阿波池田 16:21 発岡山行の特急「南風 20 号」に乗って帰宅することになるが、この特急は約 10 分後の 16:30 ころ坪尻駅を通過する。駅前から獣道に入るあたりで、写真を撮っている鉄道マニアの姿が一瞬見えた。

今回は、ローカル線紀行なのか、山歩きガイドなのかよくわからなくなったが、このへんで終わる。

- ・徳島好きっぶ 2,200 円
- ・徳島港—徳島駅バス 210 円
- ・徳島駅—坪尻駅 2,120 円
- ・阿波池田駅—大阪 7,070 円
- 合計 交通費 11,600 円



第 1 回『若手会新人歓迎会兼追い出しコンパ』

親睦委員 別所 大樹(69期)

若手会主催の今期記念すべき第 1 回『若手会新人歓迎会兼追い出しコンパ』が、7 月 8 日、ホテル日航大阪 32 階『スカイテラス』にて開催され、約 40 名の先生方にご出席いただきました。(ガラス張りのフロアから見渡せる心齋橋の景色は、絶景でした!)

ここ数年はコロナ禍ということもあり、新人歓迎会や追い出しコンパを行うことができていなかったのですが、今年はコロナが比較的落ち着いていたこともあり、感染対策には気を付けつつも、盛大に開催することができました。

若手会副幹事長の富井先生の開会のご挨拶、若手会世話役代表の堀先生の乾杯のご挨拶の後、新入会員(73期・74期)の先生方に一人 1 分程度で自己紹介をしてもらいました。



何の事前告知もなく突然自己紹介をさせられることになり皆さんタジタジかと思いましたが、名司会者のけんけんこと池田健人先生のフォローもあり、多いに盛り上がることができました。

会の終盤には、62期～64期の先生方へ花束を贈呈し、その後、幹事長の飯島奈絵先生より、春秋会への愛にあふれた閉会のご挨拶をいただいて、無事閉会となりました。



今期の若手会では、今後も様々な企画を実施していく予定です。
次回は、8月5日(金)19時～21時30分、SORASITAアメ村店にてビアパーティーを企画しております!皆様奮ってご参加ください!!

若手会破産研修に関するご報告

西祐亮(71期)

7月20日、関根法律事務所の浦寛幸先生に講師を担当いただき、若手会主催「初めての破産申立・初めての管財業務」を開催しました。この研修は、

「初めての破産申立・初めての管財業務」と銘打つとおり、これまで破産申立をしたことのない人、あるいは申立に不安のある人を対象とした研修であり、破産申立の基礎知識、留意事項を網羅的かつ具体的に事例を交えながら学習することを目的に実施しました。そのため、参加者はその過半数を74期が占めておりますが、他の期の方も含め、計18名の方に参加いただくことができました。

午後6時半から8時まで浦先生による熱のこもった講義が行われ、同廃事件と管財事件の区分基準や、申立時に見落としがちな点について分かりやすく解説いただきました。浦先生が見落としがちな点としてあげたものの中には、私自身も実際に同じミスをしたものもありました。破産申立を行ったことのない人にとってはボリューム満点の講義内容とレジュメで、全てを一度に消化することは難しかったかもしれませんが、今後破産申立を行う際に、レジュメをお手元におき確認しながら申立書を作成すれば、それだけでミスを防げるのではないかと思いました。

研修終了後は、裁判所近くにある「愛想屋」で懇親会を開催しました。今回の研修の参加者は70期～74期に集中していましたので、比較的年次の近い方どうして親睦を深める機会になったのではないかと思います。

以上のとおり、7月20日の破産研修は無事終了しました。しかし、実はこの研修は二部構成となっています。7月20日は、同廃事件について集中的に学習しましたので、管財事件の研修が未了となっております。そこで、参加いただいた方に、研修終了後、管財事件の研修への参加を希望するかにつきアンケートを実施したところ、ほぼ全員から参加希望との回答をいただきました。そのため、9月に続編として管財事件編を開催することが決定しました（詳細は改めてご連絡いたします）。

7月20日の研修に参加されていない方の中には、同廃事件は問題なくこなせるけれども、管財事件については自信がないという方もおられるかと思っておりますので、そのような方もぜひご参加ください（ZOOMでの参加も可能です）。

最後になりましたが、研修に参加いただいた皆様参加いただきありがとうございました。今後もぜひ気軽に若手会企画に参加していただければと思います。そして何よりも浦先生におかれましては、講師を務めていただきましてありがとうございました。9月の管財事件編も引き続きよろしくお願いいたします。

 今月の一曲 ～ボレロ～

青木佳史(41期)

まだ TSUTAYA も Amazon プライムも Youtube もなかった大学時代、公開済みの映画を毎月1回観ることのできる京文センター（京都教育文化センター）の定例会は貴重だった。そこで出会った映画をきっかけに、ラヴェルのボレロの虜になってしまった。



その名も「愛と哀しみのボレロ」。原題は“Les uns et les autres” 百人百様の様々な人生、といった意味合いだ。ボレロが全体の重要なモチーフとなっていて、一見陳腐な邦題

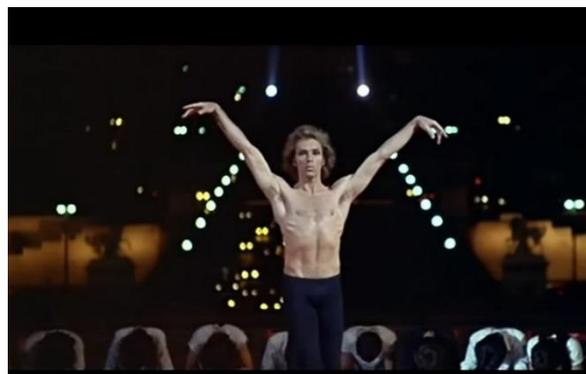
も、実はこの映画の本質をなかなかうまく表している。

予告編映像はこちら

<https://youtu.be/E9n4DRizK60>

クロード・ルルーシュ監督、ミシェル・ルグラン音楽による1981年製作のフランス映画で、冒頭、一瞬で心を掴まれてしまう印象的なシーンから始まる。パリ、エッフェル塔の下に赤く大きな丸テーブルが置かれ、上半身裸体の獅子の形相をした男性ダンサー（夭折した希代のダンサー、ジョルジュ・ドン）が、オーケストラのボレロの演奏にのって、M・ベジャール振り付けの独創的なバレエを舞い始める様が写し出される。

シーンはすぐにショートカットされ、物語の舞台は第二次世界大戦前夜に遡る。モスクワ、パリ、NY、ベルリンを舞台に、指揮者、バレリーナ、ヴァイオリニスト、ジャズ楽団リーダーの2世代4つの家族の音楽家の人生が、激しい戦禍とホロコーストに見舞われながら、世代を受け継いで交錯し、新たな人生と再会の物語として雄大に展開されていく。そして終盤、戦後復興に向けた全世界中継の救済チャリティコンサートがエッフェル塔を舞台に開催され、主人公の末裔たちが、世界各地から、ボレロが奏でられ、ジョルジュ・ドンが舞う舞台を、様々な思いで見つめる圧巻のクライマックスシーンへと向かう。



エッフェル塔でのクライマックスシーン

<https://youtu.be/ICtqsUMB3UI>

小太鼓により、2小節だけの2つの小刻みな単純なリズムパターンが最後まで合計169回ひたすら叩き続けられる中、フルートがエキゾチックな主題

の旋律を奏で始める。曲は、その後、この主旋律が同じ形のまま、クラリネット、ファゴット、オーボエ、サクソフォン、ピッコロ、ホルン、トロンボーン等に次々と引き継がれ、その後弦楽器群に受け渡され、最後にはオーケストラ全体の協奏によるコーダへと至る15分あまり。天才作曲家モーリス・ラヴェルが1928年にバレエ曲として作った、他に例のない異形の管弦楽作品だ。単純なリズムとメロディの繰り返しだけなのに、聴く者も演奏者も、次第に高揚し、興奮し、最後は一体化していく。

様々な音色で繰り返されるメロディを聴きながら、映画の聴衆は3時間にわたり繰り返し広げられてきた4つの家族の、数奇で、懸命で、時に残酷な人生の営みを重ねあわせ、やがて希望ある未来への統合をジョルジュ・ドンの神宿る踊りの中に見出し、曲とダンスが終わった後も大きな余韻に包まれる。

それからというもの、いろんな演奏でボレロを聴いてきた。やはり生の演奏にしくはない。小太鼓の献身、楽器を渡り行くメロディを、視覚的にも楽しみながら一体感を感じられる。



たとえば、アロンドラ・デラ・パーラさん指揮のWDRオケとの演奏はこちら。

<https://youtu.be/cmNEvSFwftc>



録音盤も数多くあるが、中でも出色なのは、クラウディオ・アバドさんがロンドン交響楽団を指揮した演奏で、エンディングのところでおケの奏者自身が感極まって思わず声を出して演奏している様が聴ける。この曲の本質をあらわす名演である。

<https://youtu.be/pFFigPdKPg4>

執行部だより

会計担当副幹事長 渡部真樹子(64期)

本年度、会計を担当しております、渡部と申します。会計の仕事は日々の支払い、入出金管理と予算案の作成がメインとなります。

さて、本年7月19日第4回幹事会で承認いただき成立した2022年度予算では、本年度からの新たな予算費目として、若手会員活動活性化費、委員会活動運営補助費・活性化費が新設されました。

若手会員活動活性化費は、若手会員による春秋会活動への参加を促進することを目的として、新人歓迎旅行や各種の行事懇親会に参加する若手会員に各種の補助を行います。

また、委員会活動運営補助費・活性化費は、委員会活動の活性化と委員長等の負担軽減を目的として、行事運営に尽力した会員への慰労や春秋会各委員会委員の懇親・慰労に一定の補助を行います。

このような補助によって、皆様に、負担感なく気軽に各種イベントや各委員会へ参加いただければと考えております。今後も興味深いイベントが目白押しです。皆様奮ってお申込み下さい!各委員会への参加も大歓迎です!

ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます(もちろん、一定の審査はさせていただきますが…)

horikawa@lion-law.com